大学・高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学　ハイレベル枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F125110107284	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）
大学名	滋賀大学	設置区分	国立	事業計画名	未来創生のための価値創造の担い手＝滋賀大学高度データサイエンス・AI専門人材育成機能強化事業
学校種	大学	都道府県	滋賀		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度		6月 データサイエンス研究科（博士前期課程）入学定員50名 概算要求関係資料提出	令和5年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 教育研究環境整備事業 ・大学院講義室の整備(R5.10~R6.10) ・データサイエンス創造研究棟(仮称)(研究科大学院生の研究拠点)整備のための設計(R5.12~R7.3) ・データサイエンス創造研究棟(仮称)整備計画を変更（事業計画変更 R6.3.21承認） ② 令和7年4月の研究科博士前期課程・学部定員増に向けての詳細なカリキュラム改訂・入試制度などの計画策定、及び文部科学省との協議(経済学部の定員減に関する文科省協議を含む。) ③ AI関連分野での中核教員人材の採用(~14年度) ④ 教員拡充(~14年度) ⑤ 支援期間後の自走のための資金計画及び教員人事配置計画案の検討	① 教育研究環境整備事業 ・大学院講義室の整備（図書館棟3階情報演習室１、図書館棟2階会議スペースの用途替え整備着手。） ② 1月 令和7年4月の研究科博士前期課程・学部定員増に向けての詳細なカリキュラム改訂着手 1月～3月 入試制度などの計画策定（学部一般(2月）学部編入（1月）研究科博士前期課程（3月）） 1月～3月文部科学省との協議(経済学部の定員減に関する文科省協議を含む。) ③ AI関連分野での中核教員人材の採用活動を開始 ④ AI関連分野や多様な統計分野での中核教員人材の採用(5名) ⑤ 2月 支援期間後の自走のための資金計画及び教員人事配置計画案の検討	①データサイエンス創造研究棟(仮称)については、別建設中の建物の工期遅れのため、講義室・研究室等の整備配置計画が大幅に見直しとなり、併せて建物の建築計画の見直しを行った結果、本事業の目的である学部生・大学院生の高度情報専門人材育成、社会実装をより高度に達成するため、建物の建築予定地をキャンパス中心部へと変更し、 周囲の産学連携施設や研究施設と連携して教育・研究環境を一層向上させる高度情報専門人材育成拠点整備計画とした。 ③についてはタスクフォースを立ち上げ、当該分野の研究者にリーチする公募情報のアナウンスを進め、早期の採用活動を進めている。	
令和6年度	6月 データサイエンス研究科（博士前期課程）入学定員80名 概算要求関係資料提出予定 6月 データサイエンス学部 入学定員150名 編入学定員5名 概算要求関係資料提出予定 6月 経済学部入学定員50名減 編入学定員5名減 概算要求関係資料提出予定	6月 データサイエンス研究科（博士前期課程）入学定員80名 概算要求関係資料提出 6月 データサイエンス学部 入学定員150名 編入学定員5名 概算要求関係資料提出 6月 経済学部入学定員50名減 編入学定員5名減 概算要求関係資料提出	令和6年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 教育研究環境整備事業 ・大学院講義室の整備（R5.10~R6.10） ・データサイエンス創造研究棟(仮称)(研究科大学院生の研究拠点)整備のための設計(R5.12~R7.3) ・データサイエンス創造研究棟(仮称)の施設整備(R7.2~R8.2) ・大学院研究室（仮設）の整備（事業計画変更 R7.3.26承認） ② 令和7年4月のデータサイエンス研究科博士前期課程入学定員30名増、データサイエンス学部入学定員50名増、編入学定員5名増に向けての申請等手続き、募集開始 ③ 教員拡充(~14年度) ④ 令和7年4月の経済学部入学定員・編入学定員減の申請等手続き、高校などへの予告・周知	① 教育研究環境整備事業 ・大学院講義室の整備（R5.10~R6.10） ・データサイエンス創造研究棟(仮称)(研究科大学院生の研究拠点)整備のための設計(R5.12~R7.3) ・データサイエンス創造研究棟(仮称)の施設整備(R7.2~R8.2) ② 令和7年4月のデータサイエンス研究科博士前期課程入学定員30名増、データサイエンス学部入学定員50名増、編入学定員5名増に向けての申請等手続き、募集開始 ③ AI関連分野や多様な統計分野での中核教員人材の採用(5名) ④ 令和7年4月の経済学部入学定員・編入学定員減の申請等手続き、高校などへの予告・周知	①令和7年度にデータサイエンス研究科博士前期課程の定員が増員するのに対応するため、大学院生の教育環境の整備を実施した。 ③についてはタスクフォースを立ち上げ、当該分野の研究者にリーチする公募情報のアナウンスを進め、早期の採用活動を進めている。	
令和7年度			令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 教育研究環境整備事業 ・データサイエンス創造研究棟(仮称)の施設整備(R7.2~R8.2) ② 令和9年4月の研究科博士後期課程定員増に向けての詳細なカリキュラム改訂・入試制度などの計画策定、及び文部科学省との協議 ③ 教員拡充(~14年度)	① 教育研究環境整備事業 ・データサイエンス創造研究棟(仮称)の施設整備(R7.2~R8.11）（複数年契約：２年目） ② 令和9年4月の研究科博士後期課程定員増に向けての詳細なカリキュラム改訂・入試制度などの計画策定、及び文部科学省との協議 ③ 教員拡充(~14年度)	①施設整備事業について、地中障害物への対応等のため着工前には想定しえなかった工事が生じたため工期を延長したものの、完成年度前には竣工予定であり、施設利用計画の変更には至らなかった。 ②就学開始時期に柔軟性を持たせるために秋学期入学制度の導入に向けて留学生の受け入れ態勢強化のためのカリキュラム・入試制度改訂の準備を進めている。 ③教員拡充は順調に進捗している。	
令和8年度	6月 データサイエンス研究科（博士後期課程）入学定員6名 概算要求関係資料提出予定		令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	① 令和9年度4月のデータサイエンス研究科博士後期課程入学定員3名増に向けての申請等手続き、募集開始 ② 1学年80名体制のデータサイエンス研究科博士前期課程の完成。教育実施状況の評価の実施。 （100名体制への増員計画策定の資料とする） ③ 教員拡充(~14年度) ④ 外部資金等の獲得見通しも踏まえ、支援期間後の教員体制構想を決定し、以後計画的採用により人員配置の調整を開始			
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	① 令和11年度4月の研究科博士前期課程定員増に向けてカリキュラム改訂・入試制度などの改善を検討、計画を策定、及び文部科学省との協議 ② 教員拡充(~14年度)			
令和10年度	6月 データサイエンス研究科（博士前期課程）入学定員100名 概算要求関係資料提出予定		令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	① 令和11年度4月の研究科博士前期課程定員増(20名)の申請等手続き、募集開始 ② 1学年150名(3年次以降155名)体制のデータサイエンス学部学士課程の完成を踏まえ、教育実施状況の評価を実施。必要に応じ、社会のニーズの変化などを踏まえ、学士課程カリキュラムについても更なる改善を検討 ③ 大学機関別認証評価受審 ④ 教員拡充(~14年度)			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	① 令和13年度4月の研究科博士後期課程定員増に向けての詳細なカリキュラム改訂・入試制度などの計画策定、及び文部科学省との協議 ② 教員拡充(~14年度) ③ 教室設備更新			
令和12年度	6月 データサイエンス研究科（博士後期課程）入学定員8名 概算要求関係資料提出予定		令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	① 令和13年度4月のデータサイエンス研究科博士後期課程入学定員2名増に向けての申請等手続き、募集開始 ② 1学年100名体制のデータサイエンス研究科博士前期課程の完成。教育実施状況の評価の実施 ③ 教員拡充(~14年度) ④ 教室設備更新			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	① 事業全体の自己評価作業の開始 ② 教員拡充(~14年度)			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	① 事業全体の自己評価（外部評価含む）を実施し、支援期間後の持続的改革のための計画を策定 ② 教員拡充(~14年度)			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	滋賀大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

⑨ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）５名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第５期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
すべての項目が要件を満たしている												

①～⑬の要件を満たしていない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑬,⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑬文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	認定を受けている
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４－１.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
地域と連携した次世代のデータサイエンス人材・情報人材育成のための取り組みとして、彦根市、彦根市商工会議所及び企業との連携協力プラットフォームとして、「近江テックアカデミー(株)」を設立(令和3年6月)し、様々な取り組みを進めている。この運営には本学研究科、学部生がスタッフとして参画しており、執行役員も博士前期課程学生が務めている。大学院生・学生が、地域の「生」の課題に接し、学習・研究成果を社会に還元することを通して、データサイエンティストとして必要な社会実装力を育成する場となっている。その事業は、地域ジュニアに対するIT教育、地域事業所に対するDX支援、スタートアップ支援を柱としている。このような連携が示すように、本計画によるDS・AI領域での研究科・学部定員の拡大は、地域DXを支え推進するDS・AI人材という地域社会共通基盤(地域DS人材インフラ)の拡充につながるものである。 さらにそのような連携を拡大するための「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」にも申請する予定(「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」採択済)である。	・本学学生が実務スタッフとして携わる近江テック・アカデミー株式会社において、本学と地方新聞社が協働し小中学生向け新聞にデータサイエンス紹介記事を連載（昨年度より継続）。また同社との連携による、本学教育学部附属小学校への理系人材育成体験プログラム提供の他、地元自治体近江八幡市公立中学校の地域クラブ活動「データサイエンス入門クラブ」の指導など、初等中等教育向けのデータサイエンス・IT分野の教育を拡充・充実させた。特に「データサイエンス入門クラブ」の第5回発表会には、同市から小西市長、安田教育長の参加があり、その成果について複数メディアからも耳目が集まった。 ・令和６年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」（R7.8）に採択され、当該事業により地域の企業や自治体向けに生成AIやデータ利活用に係る教育プログラムを令和7年11月から令和8年2月にかけて入門編、基礎編、応用編と各層に向けて展開した。なお、同事業は大学発ベンチャー企業3社とも連携し展開した。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は、データサイエンス領域を中心として次世代育成に貢献することを目的として様々な取り組みを実施している。まず高等学校との連携では、県内外のスーパーサイエンスハイスクール、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールを中心に9校(県内3校)と連携協定を結んでいるほか、12校の教育プログラムに協力し講師を派遣している。また、新たな取り組みとして、科学技術振興機構「次世代科学技術チャレンジプログラム」に高校生を対象とした「創造性溢れる未来のデータサイエンス人材育成プロジェクト」を企画し提案することとしており、「滋賀県の子どもたちはデータサイエンス人材である」という地域の特性を作り出すことを目指す。この取り組みでは、データサイエンス分野の教員、および大学院生が中核的役割を果たすことが計画されており、本事業による研究者・院生資源の豊富化により、その質をより一層高めていくことができると見込んでいる。	・県内外のスーパーサイエンスハイスクール、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール、DX推進校を中心とする29校に講師を派遣し、模擬講義の提供や教育プログラムへの参画等に協力した他、教育委員会や中学校・高等学校教員に向けたデータサイエンス分野の研修を実施した。 ・本学学生が実務スタッフとして携わる近江テック・アカデミー株式会社において、本学と地方新聞社が協働し小中学生向け新聞にデータサイエンス紹介記事を連載（昨年度より継続）。また同社との連携による、本学教育学部附属小学校への理系人材育成体験プログラム提供の他、地元自治体近江八幡市公立中学校の地域クラブ活動「データサイエンス入門クラブ」の指導など、初等中等教育向けのデータサイエンス・IT分野の教育を拡充・充実させた。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
データサイエンス分野における価値創造、イノベーション創出の重要な基盤は人材の多様性である。そのことを踏まえ、次の3つのアプローチで、高度データサイエンス専門人材の多様性を確保する取り組みを進めていく。 第一に、社会人の受け入れが、本学データサイエンス研究科の大きな特徴となっている。申請時において、データサイエンス研究科博士前期課程の入学定員は40名のうち20名程度が社会人(派遣)入試での入学者となっている。他大学からの進学を含む学部新卒進学者と社会人経験者が協働して学習・研究を進めることができる体制となっている。この特徴を維持すべく、増員後も継続的に社会人入学生の確保を図っていく。 第二に、女子学生については、裾野からの拡大を図るアプローチをとることとし、学部生における女子学生比率の拡大を目指す。このため学部生の一定割合を女子を対象とした入試により選抜するなどの取り組みにより、現在20%弱の女子学生入学者比率を令和10年までに30%に引き上げる。 第三に、留学生については、新たに留学生を対象とした入学者選抜の新設を行い確保を図る。	令和6年度に引き続き、高度データサイエンス専門人材の多様性を確保に向け、学長が中心となり、企業向けに大学院案内活動を実施したほか、リカレント教育プログラムの提供によりデータサイエンスに係る社会実装を見える化し、大学院への23名の企業派遣につなげた。 令和8年度データサイエンス入学者160名のうち女子学生は54名（女子割合33.8%）となり、令和10年目標の30%を達成した。 なお、令和7年度入試より導入したデータサイエンス学部総合型選抜の女子枠、データサイエンス研究科博士課程の外国人留学生入試の実績は以下のとおりであった （）内は昨年実績。 ・学部女子枠：志願者43/入学者24/定員20（33/23/20） ・研究科外国人：3（1）	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
データサイエンス学部は、学部レベルで海外5大学との連携協定を締結している。COVID-19禍下においても、Onlineを活用した海外大学研究者との共同研究、海外研究者を招請しての国際シンポジウム(Hikone Data Science Symposium～Turning Data Science and AI Technology into Innovations～)は毎年開催しており、大学院生も参加させることで人材育成にも活用している。また、データサイエンス教育の質の向上を目指した大学間連携の取り組みも進めており、「独り立ちデータサイエンティスト人材育成プログラム」(大阪大学、神戸大学、同志社大学)では相互履修により提供科目の多様化を図っている。 高等学校との連携については、先述したように、連携協定を結ぶ高等学校との協力を進める。さらに、現在高等専門学校との連携を進めるべく近隣の高等専門学校との協議を進めており、高等専門学校→学部編入→大学院博士前期課程という一貫した高度専門人材育成プログラムの創設を計画しており、令和7年度にデータサイエンス学部に5名の3年次編入学定員を新しく設ける。	・国際連携事業として、犯罪統計をテーマに国際シンポジウムを開催、テーマ１を問題解決型警察活動と、EBPM先進国である英国のエビデンス構築・普及の仕組や実務家育成、テーマ２を犯罪集中の理論的基盤や、日本の警察におけるAI等先端技術の導入に向けた取組みとして2回開催、実務家を中心にのべ250名の参加があった。 また、新たな連携先として研究者交流や共同研究の推進等を目的にタイ王国のモンクット王工科大学と学術交流協定（MOU）を締結、国際的な連携強化、更なる研究力向上への足掛かりとした。 この他、他大学や研究機関、企業所属の研究者22名からなる先端因果推論特別研究チームを設置、キックオフシンポジウムと、第1回フォーラムを開催、学内外からのべ380名の参加者が活発な議論・質疑を交わした。なお、フォーラムは年1回の定例開催を目指し、第2回を企画中である。 なお、令和7年12月に情報の利活用と品質をテーマとする国際シンポジウムChief Data Officer and Information Qualityを我が国で初めて開催し、450名を超える参加者に向けて、DXの最新動向、AIの活用、データ品質やガバナンスに関する実践など、専門的知見に基づく幅広い議論が展開された。 ・令和7年度に引き続き、大阪大学博士前期課程「独り立ちデータサイエンティスト人材育成プログラム」及び博士後期課程「データ関連人材育成関西地区コンソーシアム」、京都大学「関西広域医療データ人材教育拠点形成事業」等に連携・参画し、関西の大学院教育連携プログラムに授業提供を行うとともに、相互履修環境を構築している。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	滋賀大学

４－２.審査要項における確認項目（３つの取組、６つの観点）の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ申請時の計画を記載してください（３つの取組のみ計画の記載は不要です）。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

＜３つの取組＞

□ チェック　[１]海外のトップ大学と連携するなどして、デジタル分野の第一人者として国際的に活躍できる世界トップレベルの研究者や技術者の輩出を図る取組となっているか。
□ チェック　[２]デジタル人材の不足を解消するために、自大学の教育の高度化や定員の大幅な拡充を図るのみならず、他の大学・高等専門学校の学生も広く参加可能な優れた情報教育プログラムを横展開させる取組となっているか。
■ チェック　[３]地域や国の産業戦略とも連携しながら、企業等の具体的な実務課題の解決に取組むことで企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に多数輩出することにより、地域や我が国の産業振興に大きく資する取組となっているか。

取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では、日本初のデータサイエンス学部設立(平成29年度)以来、社会との共創・協働を柱として教育研究を行ってきた。Society 5.0時代における新たな価値創造社会におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組みは、産業界・自治体等から高く評価されており、産官との連携協定数は平成28年度18件から令和7年度には204件(11.3倍)、共同研究等外部資金受入実績額は平成28年度17,245千円から令和7年度は313,288千円(18.2倍)へと拡大している。本学との連携を要望する裾野は拡大の一途を辿っており、令和7年度だけでもデータサイエンス分野での、産官との課題解決に関する研究・連携に関する面談の回数は延べ919件(企業827、官公庁等92)に上っている。企業との連携は、個別で短期的な共同研究から、長期的な人材育成や持続的な研究開発を目指す組織的なものに移行してきた。 さらに、ネットワーク型の人的資源好循環の促進を目的とする滋賀大学データサイエンス連携コンソーシアム(構成員：企業や滋賀大学の研究者、学生及び卒業生・修了生)には、43社の企業(令和7年度末現在)が参画している。 以上のような、社会との共創・協働により獲得した資金を活かし、本学の教育・研究力の強化の基盤となるDS・AI分野の研究者の拡充を進め、平成28年度(DS教育研究センター設置時)8名、平成29年度(DS学部設置時)17名であった同分野の研究者数は、令和4年度には2倍以上の44名(外部資金による雇用18名)、令和7度にはさらに56名(外部資金による雇用19名)へと充実させており、日本の大学で最大規模のDS・AI教育研究拠点を形成し、「社会との共創・協働を柱とした教育研究→人材供給・社会実装→社会からの投資→教育研究力向上」という成長の好循環(エコ・システム)を構築することに成功している。	

＜６つの観点＞

①　大学院博士課程を含め、情報系分野の大学院において、大規模な定員増を実施する計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
データサイエンス研究科において、以下の通り定員を増員する。 大学院博士前期課程定員については　現行1学年40名を2年以内に80名に倍増。更に計画期間中に1学年100名に増加させる。 第一段階　令和6年4月　10名増(入学定員50名) 第二段階　令和7年4月　30名増(入学定員80名)　採択時点から2年以内で40名増、申請時入学定員を倍増させる。 第三段階　令和11年4月　20名増(入学定員100名)　増員する学部定員の完成年度に増員。 大学院博士後期課程定員は、申請時定員3名から5名増員し、倍以上の規模の8名とする。 第一段階令和9年4月　3名増(入学定員6名)。 第二段階令和13年4月　2名増(入学定員8名)	第一段階　令和6年4月　10名増(入学定員50名) 実施済。 第二段階　令和7年4月　30名増(入学定員80名)　実施済。	令和6年度に引き続き、令和7年度も学長が中心となり自らも教員、URAらと共に83社（団体）に対して企業等訪問を行い、大学院案内活動を展開した。結果、定員80名に対し89名が出願、82名を合格させたものの、入学手続き者は74名に留まった。 令和8年度は出願者数の増大を通じた定員の充足を目指し、府県や市町等を訪問先に加える、オンライン面談にシフトしてより対象数を増やすなど、令和7年度までの実績を踏まえた企業等訪問の実施や内部進学者を増やすための説明会の実施、5年一貫制度導の検討に着手している。

②　広く企業や自治体等と連携し、企業や自治体等が求める人材ニーズに的確に応える計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本事業は、これまで確立してきた以下のような企業や自治体・地域との連携による教育システムの規模を拡大し、社会との協働を通して、人材育成における好循環を高度化しようとするものである。 ・産官との連携協定。平成28年度18から令和3年度には112件(6.8倍) ・大学院博士前期課程生の構成は、社会人学生51%(派遣40%) ・これまでのすべての修士論文(80編)において、企業等(共同研究実施相手、連携協定企業)から提供されたデータを研究素材として利用。共同研究にも35名が参加(令和4年度実績) ・滋賀大学データサイエンス連携コンソーシアムを設立し32の企業の参加を得ている。 ・彦根市、彦根市商工会議所及び企業との連携協力プラットフォームとして、「近江テックアカデミー(株)」を設立し、学生・院生が地域のDXを推進している。	・大学院への社員派遣を促すため、学長が指示のもと企業訪問による大学院案内活動を実施したほか、リカレント教育プログラムの提供をとおしてデータサイエンスの社会実装を見える化し、大学院への社員派遣へとつなげた。 ・産官との連携協定。平成28年度18件から令和7年度には204件(11.3倍) ・大学院博士前期課程生の構成は、社会人学生31%(派遣31%) ・これまでのすべての修士論文において、企業等(共同研究実施相手、連携協定企業)から提供されたデータを研究素材として利用。共同研究にも32名が参加(令和7年度実績) ・滋賀大学データサイエンス連携コンソーシアムを設立し43社の企業の参加を得ている。	

③　連携企業等からの寄附等、外部資金の持続的な獲得が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
共同研究等外部資金受入実績額は、平成28年度17,245千円から令和3年度には211,387千円(12.3倍)へと拡大し、民間企業との共同研究に伴う１件当たりの研究費受入額では、全大学中18位(417万円)とトップレベルになっている。この社会からの投資を原資として、同分野研究者数は、平成28年度(DS教育研究センター設置)8名、平成29年度(DS学部設置時)17名から、令和3年度には2倍以上の44名へと充実させている(44名中18名は、外部資金による雇用)。「社会との共創・協働を柱とした教育研究→人材供給・社会実装→社会からの投資→教育研究力向上」という好循環(エコ・システム)を構築することに成功している。 令和4年度におけるデータサイエンス分野での、産官との課題解決に関する研究・連携に関する面談の回数は延べ661件(企業589、官公庁等72)に上っており、今後も企業等からの外部資金の持続的な獲得を見通すことができ、社会との共創・協働により、その強化の基盤となるデータサイエンス分野研究者の拡充を推進する。	共同研究等外部資金受入実績額は、平成28年度17,245千円から令和7年度は313,288千円(18.2倍)へと拡大している。この社会からの投資を原資として、同分野研究者数は、平成28年度(DS教育研究センター設置)8名、平成29年度(DS学部設置時)17名から、令和4年度には2倍以上の44名(外部資金による雇用18名)、令和7度にはさらに56名(外部資金による雇用19名)へと充実させている。 令和7年度におけるデータサイエンス分野での、産官との課題解決に関する研究・連携に関する面談の回数はのべ919件(企業827、官公庁等92)に上っており、計画通りに進捗している。	

④　高度情報専門人材を育成する大学・高等専門学校において質の高い教育を行う教員を養成・輩出する取組（当該分野の大学教員等の育成）を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
数理・データサイエンス・AI教育の拡大に不可欠な高等教育における統計教員の育成プロジェクトに参画し、中核機関である統計数理研究所の唯一のパートナーであり、同事業の西の拠点校サテライトとして、統計エキスパート人材育成コンソーシアム参加校(26校)とも協力しつつ、統計エキスパート人材育成に取り組んでいる。本学の若手教員3名が、このプロジェクトの研修を受けており、人材が極端に不足している統計学分野の教員として、今後活躍することが期待されている。 本事業では、本学大学院博士前期課程修了生が、大学におけるデータサイエンス教育スタッフのプールとなること、さらには博士後期課程進学者が、統計エキスパート育成のための高度な教育者のシーズとなることを想定し、事業を進めている。本事業によるデータサイエンス研究科博士前期・後期課程定員の拡大は、同事業における人材育成の目標水準を引上げにも貢献できる。	統計エキスパート人材育成プロジェクトに令和3年の事業開始時より、西の拠点としてハード・ソフトの両面で参画。一方で、この5年間4期にわたる事業では若手教員6名を研修生として送り出し、専門人材が極端に不足している統計学分野の教員を増員する役割も果たした。 令和8年度開始予定の後継事業では、「協働機関」として引き続き事業の中核を担うこととして申請を進めている。	

⑤　連携企業等から実務経験のある人材の大学への派遣、学生が連携企業等においてインターンシップを実施する体制の構築、連携企業等との共同研究実施が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
申請時において、企業から特任教員3名の派遣を受けている。また、データサイエンス学部インダストリアルアドバイザーとして25名の企業人を任命しゲスト講師等として活躍いただいている。 　これまでの修了生(80名;社会人学生46名(うち派遣42名)、他大学からの進学者10名、内部進学者24名)ではすべての修士論文(80編)において、企業等(共同研究実施相手、連携協定企業)から提供されたデータを研究素材として利用し研究を行っている。大学が進めている企業等との共同研究への大学院生への参加も高度専門人材養成の仕組みとして活用しており、企業からの派遣学生を除く多くの学生（令和4年度実績延べ35人）が参加している。また学部生も卒業研究等において企業のデータを活用できる体制としている。 本学の連携先企業は拡大傾向を持続しており、院生・学部生の増員後も、以上のような産業界と連携した教育を実施できる体制の質と量を向上させていくことができる。	令和7年度末現在、企業の派遣等、実務家の特任教員を14名（大里・寺田・福島・大西・姜・和田・福井・五十嵐・増島・馬場・野元・前田・松本・ポール）受け入れている。また、データサイエンス学部インダストリアルアドバイザーとして28名の企業人を任命しゲスト講師や企業連携のコーディネーター等として活躍いただいている。 ・これまでのすべての修士論文において、企業等(共同研究実施相手、連携協定企業)から提供されたデータを研究素材として利用。共同研究にも32名が参加(令和7年度実績)している。	

⑥　他大学等の学生も参加できる情報教育プログラムの実施や教材作成等を含む質の高い取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
平成29年度に全国6拠点校の一つとして選定されて以来、数理・データサイエンス・AI教育の拠点校として活動し、他大学の同分野教育プログラムへの助言、教材作成を進めてきた。その活動が評価され、令和4年度には引き続き全国11拠点校の一つとして選定されている。 また、データサイエンス系大学教育組織連絡会設立(11機関参加)の設立に発起校として参画し、同分野での教育の質向上のための活動を進めている。 さらに、大学院教育における共同も進めており、博士前期課程で「独り立ちデータサイエンティスト人材育成プログラム(本学他、大阪大学、神戸大学、同志社大学)、博士後期課程「データ関連人材育成関西地区コンソーシアム(本学他、大阪大学、神戸大学、和歌山大学、大阪公立大学)に参画し、相互履修制度等により他大学の授業レベルも相互参照を通した質向上の取り組みを進めている。	・数理・データサイエンス・AI教育の拠点校として、特定分野会議（人文・社会科学系）の活動を推し進め、全国への普及活動を継続、教員グループにより実例で学ぶ教科書「生成AIを活用したデータサイエンス入門」を執筆し、3月に刊行した。 ・近江テック・アカデミー株式会社と連携し、プログラミング言語「python」習得のための動画を制作し、教材の充実を図った。 ・滋賀大学が発起校として参画する「データサイエンス系大学教育組織連絡会」において、データサイエンス・情報系学部を設立した20大学（昨年比3校増）が連携し、データサイエンス教育・研究が科学技術や経済社会の発展に寄与するよう、産官学の直接的な対話を促進、対外的な活動を実施している。 ・大阪大学博士前期課程「独り立ちデータサイエンティスト人材育成プログラム」及び博士後期課程「データ関連人材育成関西地区コンソーシアム」、京都大学「関西広域医療データ人材教育拠点形成事業」等に連携・参画し、関西の大学院教育連携プログラムに授業提供を行うとともに、相互履修環境を構築している。	

５－１.大学院（修士課程、博士課程）における学生の研究活動実績

令和7年度 大学院在籍学生の論文の採択・受賞状況や各コンペティション等の受賞状況、筆頭著者論文数等、学生の研究活動実績を記載してください。

令和7年度コンペティション等で、のべ67件の大学院生による学会等発表が行われた。主な実績は以下のとおり、
・「NEC Analytics Challenge Cup 2025 データ活用コンテスト」で博士前期課程学生5名からなるチームが、また個人1名が優秀賞を受賞。
・「国際会議NLDB2025(Natural Language & Information Systems)」で博士前期課程学生1名がBest Paper Awardを受賞。
・「鯖江市プログラミングコンテスト」で博士前期課程学生1名が最優秀賞を受賞。
・「情報処理学会第88回全国大会」で博士前期課程学生1名が学生奨励賞を受賞。

５－２.大学院（修士課程、博士課程）における学生の卒業後の進路状況

令和7年度 大学院卒業者の卒業後の進路状況を記載してください。就職先企業名や研究機関名、業種、職種、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。

令和7年度の博士前期課程修了生は56名。内数として、2名が進学、3名が就職活動を継続、残り51名が就職した。（うち企業派遣20名）
就職先については、主な業種は、情報通信業に15.7%（NTT西日本、日本IBM等）、運輸業・郵便業に11.8%（全日本空輸、日本航空等）となっている。
博士後期課程修了生は3名。当該3名については全て企業等に就職した。

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	滋賀大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和5年度	選定時留意事項	今後は産業界のトップレベル人材においてもグローバルに活躍するには博士の学位が求められるようになり、また他大学もデータサイエンス教育に力を入れる中で優れた教員を確保し教育体制を維持する必要があることから、輩出する専門人材や必要な教育体系など、学生のキャリアパスを踏まえて人材育成プログラムを精査した上で、博士後期課程を充実させることが求められる。	博士後期課程の研究プログラムは、「高度な棟梁レベル」のデータサイエンティスト育成を目的とし、機械学習・AIエンジニア系やデータコンサルタント系において高い研究力を有する価値創造人材の育成を目指している。また、大学等の研究指導ポストへの輩出など、アカデミアとの高度な人材交流も視野に入れている。 そのため、統計学・情報学・応用領域の先端研究を担う研究者の配置・増員により指導体制を強化するとともに、大学院生が企業等との共同研究に参画する機会を設け、データサイエンティストとして社会で活躍するための実践的な場を提供している。 令和5年度2名、令和6年度3名、令和7年度3名の修了者を輩出し、うち7名は企業へ就職した。また、令和5年度修了者のうち1名が、就職先企業から改めて受託研究員として大学に派遣されたり、令和6年度修了者のうち1名が、特任助教として研究を継続したり、更に博士前期課程まで進学した学部1期生が、就職した企業から博士後期課程へ派遣され、連携事業へ参画するなど、企業と大学間での研究交流サイクルが構築されつつあり、就職後も修了者がアカデミックな研究活動が継続できる環境が整ってきたといえる。
令和5年度	選定時留意事項	統計学以外の領域においてもアカデミックな意識を高め、アカデミア人材を輩出することについて検討が求められる。	博士後期課程の研究プログラムとしては、統計学のほか、情報学・応用領域それぞれの先端研究を実施する研究者の配置・増員し研究指導教員体制をさらに充実させるとともに、大学院生に対しての修学支援サポートとして、令和7年度より、データサイエンス博士後期課程の大学院生が研究成果を発揮できるよう本学独自奨学制度等の整備し、1名に奨学金交付を決定する等、博士後期課程からアカデミア人材への輩出へつなげる（継続）。令和5年度の博士後期課程修了者の1名は大学の工学系の特任助教に着任。また、令和6年度博士修了者の1名が他大学の社会学系の特任助教に着任するなど、当該分野でのアカデミア人材の輩出が着実に増している。

大学名	滋賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる研究科等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－１.博士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	データサイエンス研究科データサイエンス専攻

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定																		
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	3	3	3	3	6	6	6	8	8	8									
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	3	3	3	3															
		入学者数	人	3	4	6	4															
		女子学生数	人	0	0	0	0															
		社会人学生数	人	0	2	3	3															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	3	3	3	3	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	3	4	6	4	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	2	3	3	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.33	2.00	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	9	9	9	9															
		在籍者数(D)	人	14	15	18	18															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.56	1.67	2.00	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	2	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		就職者数	人	2	3	3																
		進学者数	人	0	0	0																
		その他	人	0	0	0																
		進路不明	人	0	0	0																
	大学院博士課程	満期退学者数	人	0	0	0																
		学位取得者数	人	2	3	3																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	2	2	3	0															
		授業科目の単位数	単位	2	0	2	0															

大学名	滋賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる研究科等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－２.修士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	データサイエンス研究科データサイエンス専攻

					R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		年度																					
		改組状況			選定	増員	増員																
大区分	小区分	項目		単位																			
	事計画に定める定員	入学定員		人	40	50	80	80	80	80	100	100	100	100									
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員		人	40	50	80	80															
		入学者数		人	50	53	82	74															
		女子学生数		人	5	5	11	7															
		社会人学生数		人	20	19	23	26															
		留学生数		人	0	0	1	0															
	その他の学期	入学定員		人	-	-	-																
		入学者数		人	-	-	-																
		女子学生数		人	-	-	-																
		社会人学生数		人	-	-	-																
		留学生数		人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)		人	40	50	80	80	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)		人	50	53	82	74	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数		人	5	5	11	7	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数		人	20	19	23	26	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数		人	0	0	1	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）		倍	1.25	1.06	1.03	0.93	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	収容定員等	収容定員(C)		人	80	90	130	160															
		在籍者数(D)		人	101	106	146	164															
		収容定員充足率（D/C）		倍	1.26	1.18	1.12	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数		人	46	41	56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		就職者数		人	44	38	51																
		進学者数		人	2	3	2																
		その他		人	0	0	3																
		進路不明		人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数		人	2	2	4	6															
		授業科目の単位数		単位	24	14	26	46															

大学名	滋賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－３.学士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	データサイエンス学部データサイエンス学科

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定		増員																
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	100	100	150	150	150	150	150	150	150	150									
		編入学定員	人			5	5	5	5	5	5	5	5									
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	100	100	150	150															
		入学者数	人	100	108	158	160															
		女子学生数	人	25	25	44	54															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	100	100	150	150	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	100	108	158	160	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	25	25	44	54	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.08	1.05	1.07			-	-				-	-		-	-	-		
	収容定員等	収容定員(C)	人	400	400	455	510															
		編入学定員	人	-	-	5	5															
		在籍者数(D)	人	432	430	485	544															
		編入学者数	人	-	-	2	1															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.08	1.08	1.07	1.07			-	-				-	-		-	-	-		
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	97	93	94	-	-			-	-		-	-		-	-		-	-	
		就職者数	人	75	75	69																
		進学者数	人	22	17	24																
		その他	人	0	1	1																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	3	2	5	7															
		授業科目の単位数	単位	35	24	40	64															

大学名	滋賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

２.情報系組織の状況

２－１.博士課程

年度				R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	3	3	3	3															
		入学者数	人	3	4	6	4															
		女子学生数	人	0	0	0	0															
		社会人学生数	人	0	2	3	3															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員（A）	人	3	3	3	3															
		入学者数（B）	人	3	4	6	4															
		女子学生数	人	0	0	0	0															
		社会人学生数	人	0	2	3	3															
		留学生数	人	0	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.33	2.00	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	9	9	9	9															
		在籍者数(D)	人	14	15	18	18															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.56	1.67	2.00	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	2	3	3																
		就職者数	人	2	3	3																
		進学者数	人	0	0	0																
		その他	人	0	0	0																
		進路不明	人	0	0	0																
	大学院博士課程	満期退学者数	人	0	0	0																
		学位取得者数	人	2	3	3																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	2	2	3	0															
		授業科目の単位数	単位	2	0	2	0															

大学名	滋賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

２.情報系組織の状況

２－２.修士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	40	50	80	80															
		入学者数	人	50	53	82	74															
		女子学生数	人	5	5	11	7															
		社会人学生数	人	20	19	23	26															
		留学生数	人	0	0	1	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員（A）	人	40	50	80	80															
		入学者数（B）	人	50	53	82	74															
		女子学生数	人	5	5	11	7															
		社会人学生数	人	20	19	23	26															
		留学生数	人	0	0	1	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.25	1.06	1.03	0.93	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	80	90	130	160															
		在籍者数(D)	人	101	106	146	164															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.26	1.18	1.12	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	46	41	56																
		就職者数	人	44	38	51																
		進学者数	人	2	3	2																
		その他	人	0	0	3																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	2	2	4	6															
		授業科目の単位数	単位	24	14	26	46															

大学名	滋賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

２.情報系組織の状況

２－３.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	100	100	150	150															
		入学者数	人	100	108	158	160															
		女子学生数	人	25	25	44	54															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員（A）	人	100	100	150	150															
		入学者数（B）	人	100	108	158	160															
		女子学生数	人	25	25	44	54															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.08	1.05	1.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	400	400	455	510															
		編入学定員	人	-	-	5	5															
		在籍者数(D)	人	432	430	485	544															
		編入学者数	人	-	-	2	1															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.08	1.08	1.07	1.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	97	93	94																
		就職者数	人	75	75	69																
		進学者数	人	22	17	24																
		その他	人	0	1	1																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	3	2	5	7															
		授業科目の単位数	単位	35	24	40	64															

大学名	滋賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

３.大学全体の状況

３－１.博士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	6	6	6	6															
		入学者数	人	7	6	7	6															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員（A）	人	6	6	6	6	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	7	6	7	6	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.17	1.00	1.17	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員（C）	人	18	18	18	18															
		在籍者数（D）	人	28	28	33	33															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.56	1.56	1.83	1.83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

３.大学全体の状況

３－２.修士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	72	82	112	112															
		入学者数	人	75	83	113	102															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	0	3	0	0															
	入学者合計	入学定員（A）	人	72	82	112	112	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	75	86	113	102	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.04	1.05	1.01	0.91	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員（C）	人	144	154	194	194															
		在籍者数（D）	人	153	160	209	224															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.04	1.08	1.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

大学名	滋賀大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

３.大学全体の状況

３－３.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	790	790	790	790															
		入学者数	人	824	827	822	823															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員（A）	人	790	790	790	790	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	824	827	822	823	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.04	1.05	1.04	1.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員（C）	人	3,200	3,200	3,200	3,200															
		編入学定員	人	20	20	20	20															
		在籍者数（D）	人	3,468	3,502	3,544	3,546															
		編入学者数	人	25	27	22	19															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.08	1.09	1.11	1.11															

４.外部資金の状況（全学）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
競争的外部資金等の状況	全体	研究者数	人	253	253	265	267															
		外部資金獲得額	千円	837,427	1,202,178	1,646,352	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	共同研究	実施件数	件	32	36	40																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	32	33	37																
		受入額	千円	80,570	162,689	194,395																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	80,570	114,886	184,937																
	受託研究	実施件数	件	9	12	14																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	0	1	1																
		受入額	千円	48,109	84,723	81,503																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	0	541	5,541																
	寄附金	実施件数	件	270	324	438																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	41	37	38																
		受入額	千円	256,673	196,835	132,700																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	34,586	28,834	49,134																
	その他	受入額（上記に当てはまらないもの）	千円	452,074	757,931	1,237,754																

特記事項

「3-2.修士課程」の「その他の学期」の「入学定員」及び「入学者数」については、経済学研究科において実施している、海外協定校からの秋学期入学（若干名）である。